



経営者向け

エンドツーエンドのバリューチェーン構築と見える化を実現する6つの主要の柱

産業用製造業

私たちは、製造の未来はより高度で相互につながり、アウトプットに焦点を当てたものであるとよく耳にしてきました。一方で、未来に向けて準備する時間が十分あるなら、このような世界はすでに到達、実現できていたに違いありません。現代の見えにくい経済状況のなかで、さらに厳しくなるお客様からの要望や、新たな競合他社の登場など競争要因と差別化要素が多様化しており、製造業全体でイノベーションのバリューポジションにおけるバリューカーブと要因のスピードはますます早まっているといえるでしょう。

この新しい標準に対応し差別化要因へのリソース集中するためには、時代遅れのサイロ化された業務プロセスがデジタルによる変革の必要性に迫られていることを改めて認識する必要があります。現場のスケジュールの最適化、より応答性の高いサプライチェーンの実現など、サプライチェーンや業務プロセスには、データ駆動型のもと、包括的、かつ柔軟性が求められるのです。

製造デジタルエコシステムの6つの柱

多くのメーカーは、競争力を維持し、成長とイノベーションを持続するために、デジタルを活用した企業変革が必要であることを認識しています。製造業リーダーシップ評議会の最近の調査によると、製造業全体の91%の企業が、デジタルツールへの支出を増やすことに意欲的であることが報告されています。

“2026年までに、大企業の50%が企業単位ではなく、共同デジタルエコシステムとして競争し続けることになる。”

ガートナー®

また、製造業全体の29%の企業は、向こう数年間でデジタルエコシステムの構築に支出を「大幅に増加する」と計画しています。

製造業におけるデジタルエコシステムを構成する要素を正確に理解するために、私たちはその主要な特性を以下の6つの柱にグループ化しました。これらの柱は、弊社が持つデジタルソリューションの中核となる機能を表しています。重要なデータへの完全な見える化とシームレスなアクセスをもたらし、関連するユースケースや、ツール、KPI、ワークフローを一元的に把握することができるでしょう。6つの柱すべてが組織にとって必要であるとは限りませんが、時間の経過とともにニーズが変化する可能性が高いため、この柱がより柔軟で、必要に応じて分岐したり、関連性がなくなった場合は凝縮したりできます。

エンドツーエンドの見える化のための相互接続プロセス

6つの柱

1. 新たなお客様体験

パーソナライズされた、または高度に構成された製品を、スピードと価値をもって提供します。お客様が期待する豊かな購買体験を提供するとともに、営業と運用・生産を統合し、注文の正確性と品質管理を実現します。

2. スマートサプライチェーン

サプライチェーン全体のパートナーや供給品と協力し、より高い可視性を実現します。データに基づく判断で是正措置を実施、理想的な結果をもたらします。エンドツーエンドのサプライチェーンをリアルタイムで把握し、在庫レベルを維持するために、出荷経路を迅速に変更するなど俊敏性を得ることができます。

3. 高度な日々のオペレーション

日々のオペレーション、現場のプロセス、スケジューリングを完全な見える化で指揮運用します。「もしもの時」シナリオを分析、労働力を含むリソースの最適な利用を計画します。オペレーションとバックオフィス間のギャップを埋め、コストと収益性を明確に把握します。

4. 流通

お客様が必要なときに、必要とする場所に、必要な製品を確実にお届けします。3PL（サードパーティー・ロジスティクス）、アフターマーケットサービス契約、保証、デポ修理の管理を確実にを行います。

5. 環境・社会ガバナンス

脱炭素社会にむけて炭素会計技術を採用し、お客様の期待とともに規制強化の条件を満たすゼロエミッション目標を達成します。循環型製造における持続可能性モデルを採用することで、材料や資産の寿命を延ばし、廃棄物削減の取り組みを改善、エネルギー使用量を削減します。

6. コネクテッドワーカー

労働とリソースの見える化の向上で、社員の採用、維持、エンゲージメント向上を支援します。戦略的に適切なスキルを持つ人材を適材適所に配置することで、すべての社員がもつ可能性を最大化し生産性向上とエンゲージメント向上を実現、魅力ある会社への変革を支援します。

現代の製造に力を与える

デジタルエコシステムは、関連性の高い信頼できる正確なデータの上に構築されており、データを収集、保存、集約、分析して有意義な洞察を導き出し、それらのインサイトをもとに、ユースケースに適用することができます。デジタルエコシステムは自らのイノベーションを促進し、テクノロジーが進化し続けるにつれて、必要に応じて進化し、成熟し、そして最新の状態を維持するための柔軟性を備える必要があるでしょう。この俊敏性によって、それぞれが持つ役割別のインターフェースやフォーム、ダッシュボード、レポート機能を兼ね備え、各従業員をエンパワーするなど、デジタルエコシステムの利用範囲も幅広く適応できます。このようにデジタルエコシステムは、組織の異なる部分を有機的に結びつけ、プロセス、人、物事をつなぐ企業全体の見える化を可能にします。このレベルの相互接続と見える化こそが、6つの柱の上に構築されており、弊社がご提供するデジタルソリューションの中核なのです。

[詳細はこちら](#) ➔



インフォアは、業界特化型のビジネスアプリケーションをクラウドで提供しています。17,000人の社員が、175か国以上で65,000以上のお客様のビジネスを支援しています。詳しくは、www.infor.com/ja-jp/をご確認ください。

Copyright© 2023 Infor. All rights reserved. 本文に記載の文字商標および 図形商標は、インフォアおよび/またはその関連会社ならびに子会社の商標および/または登録商標です。本文に記載のすべての他の商標は各所有者の所有物です。 www.infor.com.

東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル16階

INF-2822829-ja-JP-1023-1